

俳句

大津俳句会

神木を頼りにしたる蟬の殻

井芹眞一郎

それぞれの薬味が楽し冷奴

秋山恵子

梅雨霧に阿蘇の連山模糊とあり

市原初女

かんぞうの花には雨の冥さなく

江藤みち

雨音に起こされ川は出水かな

大塚喜久子

船宿の風吹きぬける夏座敷

岡崎浩子

背鰭出し紅蓮揺らし鯉泳ぐ

坂本セキ

老犬の寝顔にそつと日除かな

佐賀久子

水田の鏡となりて大夕焼

堀川妙子

坂の街一灯・二灯暮遅し

松尾昭雅

夏帽子離れて拝す湖中句碑

渡邊佳代子

アボガドに芽の出てうれし夏来る

森山美穂子

俳句

つのはな句会

町消えて狐の嫁入りもう来ない

星永 文夫

ビー玉に未完の蛇をとじこめる

矢嶋 道子

ひまわりくると昨日の空の色

水野 春子

白南風が田のすみずみをうるおして

梅木トキエ

生きるとは苦しいことよ桐の花

塚本 洋子

夏野行く仮面いくつも脱ぎながら

榮田しのぶ

あじさいの風入れ若き日の詩集

志賀 孝子

六月の酔えないワイン 舟が出る

田上 公代

たばこ屋の二階昭和が夕焼ける

木庭 杏子

コーラ瓶のぞいて探すアンタレス

上杉 波

短歌

大津短歌会

逆光のオレンジ色に染まる空に

浮く阿蘇山脈の美のシルエツト

豊岡ミツル

つかの間を気持ち通わせたる女と

名をも聞かずに列車に別れ来

渡辺佐代子

御門主は世の安穩を願われつ

吾ら信徒の集いも明し

菅野 静

春たけて激震七か去りし日の

阿蘇の五岳は黒々聳ゆ

吉永 恵子

流れ薄雲見え隠れする満月に

明日の日和を氣遣う我妻

鞍 岳志

八十二の年齢の差超えし幼児らと

戯れて想うイエスの眼差し

小平 善行

短歌

万年青短歌会

老いてなおすこやかなれと喜寿祝う

われの写真に見入りてゐたり

磯崎テル子

新年の供え餅こそ好物と

この馬鹿鴉くわえて去りぬ

中山 春代

牛を追い馬を連ねて働かし

この道にいまだ石畳あり

山内 信子

楠若葉空にひろがる神苑に

曾孫男の子の初宮参る

合志 桃花

棟上げに餅投げる人拾う人

震災の村に槌音響く

合志 妙子

水満ちて稲田は広し水鏡

地震あと今に阿蘇を写して

河北 幸一